

電子化するための問題点・1

入院日数に関すること

- ・小児科の呼吸器疾患パスは気管支喘息、肺炎、気管支炎、気管支肺炎、クループ、細気管支炎の患者に適応させていた
- ・入院期間が変動するため紙パスでは6日入院のパスを作成し、入院期間が延長すれば追加できるようにしていた
- ・入院期間が変動し、逸脱する時の扱いをどうするか検討が必要である

問題点の検討

入院日数に関すること

1. 約60%が5日以内に退院していたため、電子カルテでは入院期間を5日とした
2. パス学会などで情報を集め、フレキシブルパスで日数調整が出来るパスの作成を試みた
3. フレキシブルなパスを入院期間が延びることに適応させることにした
4. フレキシブルパスは2日間、3日間の2種類作成した

電子化するための問題点・2

医師の指示入力に関すること

- ・小児は体重によって点滴・注射・処方などの投与量が決まるため、パスであらかじめ決まった指示を出すのは難しい

問題点の検討

医師の指示入力に関すること

1. 体重によって変わる指示は入院が決定したら医師が入院の時点で入力する
2. どの小児にも適応できる安静度・清潔の指示などは、パスで事前に指示を入れておく

電子カルテ稼働後の問題点

1. 入院日数に関すること

- ・フレキシブルパスは実際には適応できなかった
- ・作成は出来たが、実際に適応させるとフレキシブルパスがうまく動かなかった

2. 医師の指示入力に関すること

パスで指示が出ていれば、指示が統一でき、もれもなく、研修医に指導もしやすくなるが、入院時にそれぞれ指示だしをするのであれば、医師の手間にかかわらずパスを使用するメリットが少なかった

稼動後の再検討

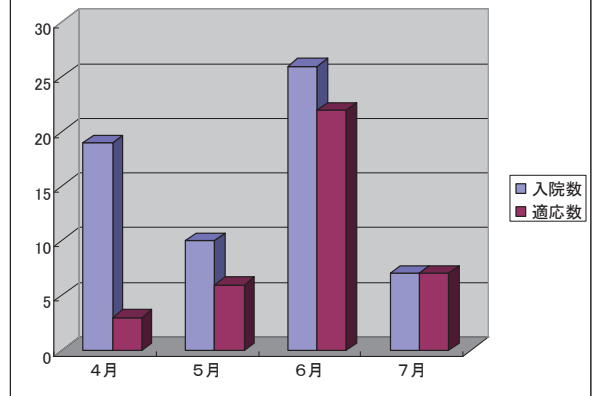
1. 入院日数に関すること

フレキシブルパスを中止し入院期間を7日間で再度作成した

2. 医師の指示入力に関すること

指示は毎回入力をするのではなく、体重によって決定される薬剂量、吸入の回数など児によって変化のあるところのみ入院時に入力できるように設定した

H25年度小児呼吸器疾患臨床パス使用件数



移行できた要因

- ①電子化移行早期にパス委員が入院期間、指示の入力修正を行い医師に適応を促す声かけをした
- ②パスを適応させることで、指示が統一され、漏れがないというメリットがあった
- ③各部署に電子化に関わったパス委員がいたため問題点に早期に対応できた

今後の課題

- ①入院期間を7日間のパスに変更したが、今後はバリエーション集計を行い、日数設定を検討する必要がある
- ②医師の指示は簡潔に入力できるように検討しているが、システム上の制限がある
- ③パス適応患者であることが一目でわかるような表示方法の改善を求める
- ④パス統計を定期的に行い改訂につなげる

ご清聴ありがとうございました

